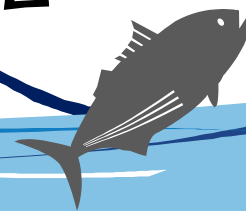


平成 30 年度 焼津市自治基本条例

まちづくり市民集会・大ワールドカフェの報告



平成31年1月12日(土)実施

焼津市自治基本条例まちづくり市民集会 実行委員会

30 年度実行委員会からの報告 ～5 回目の「まちづくり市民集会」

平成 31 年 1 月 12 日 (土) に焼津文化会館・小ホールにて、5 回目となる「まちづくり市民集会」を開催しました。10 代～80 代の市民、自治会関係の方、市長、市議会議員、市職員等、多様な世代・立場の 170 名を超える多くの方々にご参加いただくことができました。年々、参加者が増えており、少しずつまちづくり市民集会の認知度が高まっていると感じております。

改めまして、まちづくり市民集会に関わっていただいた全ての皆様にお礼を申し上げます。

実行委員会では、市民集会の成果を今後のまちづくりに活かしていけるよう、市民・議会・行政の皆さんと共有するための振り返りの話し合いを行い、本報告にまとめました。

●テーマ「人生 100 年時代に向けたオールやいづのまちづくり」

今回で 5 回目となるまちづくり市民集会。第 1 回は平成 27 年 3 月に「焼津市の未来・わたしたちの暮らしと自治基本条例」をテーマに開催しました。その時の話し合いで、まちづくりには「人とのつながり」や「お互いを知る」ことが大切だということを再認識し、第 2 回は『縁』とつながりで育む「住み続けたい焼津」をテーマとしました。回を重ねるごとに、まちづくりに対する想いやアイデアなどが参加者の皆さんからたくさん出てくるようになりました。テーマを決める際は、「人とのつながり」を念頭に置きつつ、その時期に焼津で一番ホットなテーマ設定をしています。

第 5 回のテーマを決めるにあたり、「福祉」をテーマにしたいという提案がありました。そこで、最初の実行委員会で「地域ささえあい」の勉強会を行ったうえで、テーマについて話し合いをしました。最近、テレビや新聞などでもよく出てくる「人生 100 年時代」というホットなテーマ（その背景には「ささえあい」があります）に、自治基本条例の根幹テーマである「オールやいづのまちづくり」を組み合わせ、これをテーマにすることに決定しました。



和やかな雰囲気。笑顔がたくさん見られました。

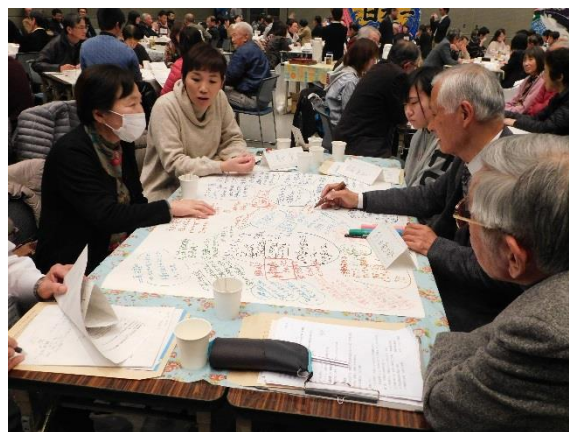
●「人生 100 年時代に向けて、自分のために、誰かのために、何ができるか、したいか？」について、たくさんの提案・ヒントが出ました。

24 のグループからたくさんの素晴らしい提案がありました。それらの提案を「人生 100 年時代に向けて、自分のために、誰かのために、地域のために、何ができるか・したいか それぞれの力を活かし、「オールやいづ」で住み続けられるまちづくり」とまとめました。

誰かのために役立ちたい。でも決して無理をすることはない。自分が楽しくなかったら続かない。自分の趣味、特技を誰かのために活かし、つなげていく。皆さんそれぞれの力を、住み続けたいまちづくりに活かしていきましょう（4ページに提案のまとめ、5ページ以降に全グループの「発表内容シート」のまとめ）。



どのグループも話し合いが盛り上がっていました

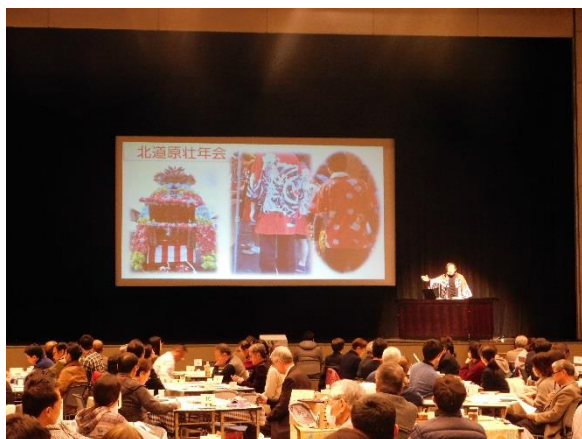


年齢や立場に関係なく熱く楽しく話し合いました

●話題提供が好評でした

地域の壮年会活動を活発に行っている「北道原壮年会」。地域のお祭りやイベントを通じて中間（ミドル）世代がつながり、活躍できる地域づくりが行われています。積極的に声掛けをして地域の中間世代を巻き込んでいくことや、壮年会の中に部活動があり、仲間のつながりを強めていることなど、他にはない取り組みで、参加者の関心を集めました。

夏休みと冬休みに地域の小学生を集め、勉強や昔の遊びの体験の場を元教員と地域住民でつくっている「小川上子ども塾」。現役時代に培ったことの活かし方や地域の子どもの見守り、親世代との交流など、様々な世代に関わるお話で、多世代交流や居場所づくりのヒントとなる発表でした。



話題提供① 北道原壮年会



話題提供② 小川上子ども塾

●高校生の活躍

今回も、高校生・大学生が参加してくれました。人生 100 年について考えるのはまだまだ先のことですが、人生 100 年時代の今、自分に何ができるのかを大人に交じって真剣に考えてくれました。学生たちはみんなしっかりと自分の意見を持ち、堂々と発言できるので、同じテーブルに着いた大人たちは感心したり、刺激を受けたり、交流を楽しんでいました。

発表の場面では、グループの代表として発言する学生もいましたが、しっかりとグループの意見をまとめて発表してくれるので、会場全体が大いに盛り上がりました。発表をしない学生にも、発表を仕切ってくださったアドバイザーの松下啓一先生（相模女子大学夢をかなえるセンターエグゼクティブアドバイザー）が必ず声をかけ、話し合いの感想を求めましたが、こちらも堂々とした発言でした。



●新しいものが生まれる場に

10代から80代の様々な立場の参加者が同じテーブルにつき、意見を交わしました。まちづくり市民集会は、いろいろな意見を聞くことで参加者それぞれに“気づき”や“交流”が生まれることを目的にしています。

参加者からは、「自分のできる小さなことから始めていきたい」「自分たちの活動に取り入れていきたいことがあった」「自信を持って新しい団体をつくりたい」「地域にできることを模索していく」など、一歩を踏み出す前向きな感想がありました。また、新しいつながりもできているようでした。今回の話題提供「北海道原壮年会」のお話を聞くことを目的に参加してくださった「三右衛門新田」の中老会の方は、早速北海道原の行事に参加し、交流が生まれています。

今後も“気づき”と“交流”が生まれる場づくりを工夫して作っていきたいと思います。

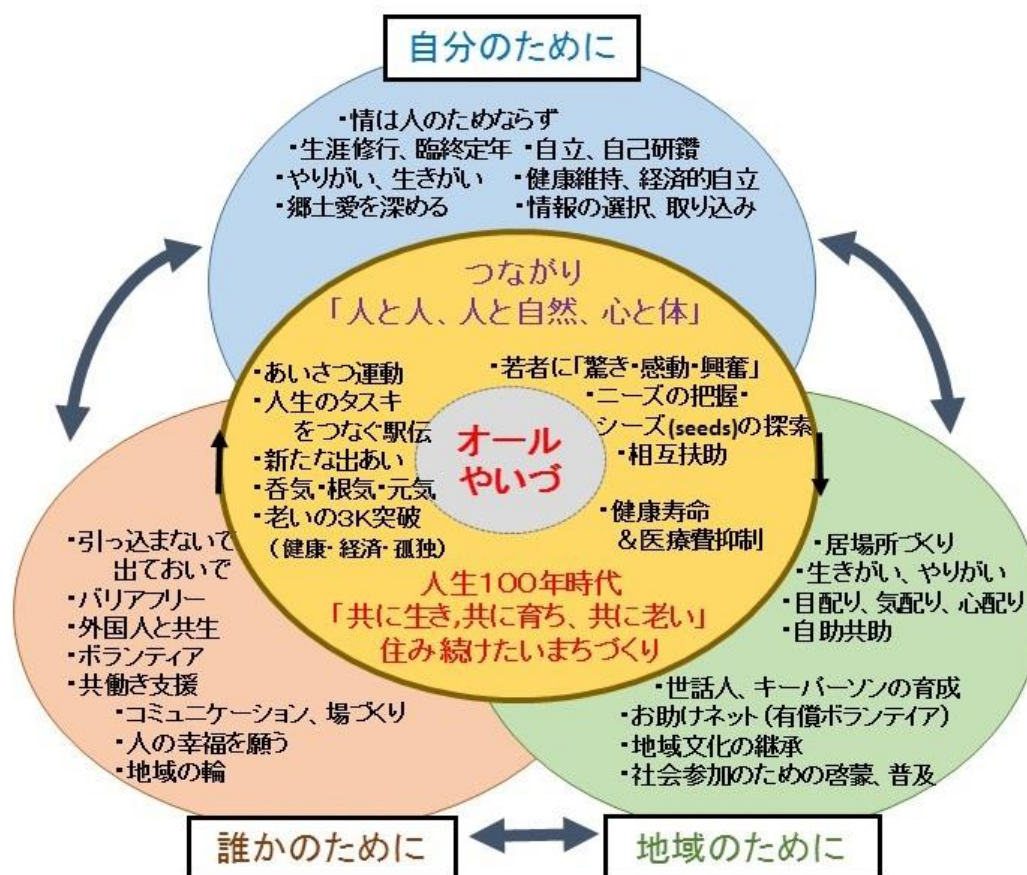
●今後も「まちづくり市民集会」へのさらなるご参加・ご支援をお願いします。

アドバイザーの松下啓一先生は、この市民集会自体が全国的にも稀少なまちづくりの資源だとおっしゃっています。市民手づくりの「まちづくり市民集会」が年々発展しながら継続していけるよう、市民、議会、行政の皆様により積極的なご参加とご支援を引き続きよろしく願いいたします。

「人生100年時代に向けたオールやいづのまちづくり」

～やいづからの発信～

人生100年時代に向けて、自分のために、誰かのために、地域のために、何ができるか・したいか
それぞれの力を活かし、「オールやいづ」で住み続けられるまちづくり



各グループからのキーワードのまとめ

自分のために (Live for oneself)

- ・人と接することが長生きの秘訣。あいさつと笑顔は元気の源。身近な人と関わりを持つ。
- ・趣味、得意なことを、自分のために楽しもう。それが誰かのためになっていく。
- ・地域に愛着を持つ。できることから一人一役。生きがいややりがいにつながっていく。
- ・50代のうちから(定年退職前から)第2の人生を考えよう。
- ・運動・食事・社会参加。健康寿命を延ばし、いきいきとした人生100年をすごそう。

誰かのために (Live for other people)

- ・目配り・気配り・心配り。
- ・得意・不得意を持ち寄ろう。迷惑をかけてもいいじゃないか。お互いさま。
- ・引っこまないで、出ておいで。可能性の発掘。地域に埋もれている人材を掘り起こそう。
- ・地域文化、体験・経験を親から子へ、子から孫へ。生きる知恵を継承・伝承していこう。
- ・高齢化社会に貢献できる職業を目指す(高校生の参加者の宣言)。

地域のために (Live for our community)

- ・あいさつ運動。お互いに顔見知りになって安全なまちづくり。
- ・やろう、やろうの雰囲気づくり。地域の行事の継続。見直していくことも必要。
- ・20代から40代の地域参加。遠慮せず声をかけていこう。参加のきっかけづくり。
- ・地域で同じ夢を持つ。夢を語る場がネットワークや居場所になっていく。
- ・お助けネットができたらいいな。外国人の力も生かしたい。
- ・世話人・キーパーソンの育成、自助共助、行政や自治会の小規模団体への支援。

発表内容シート

「人生 100 年 自分のために 誰かのために 何ができるか、したいか?」

1 テーブル

「シニア世代に生きがいを」

- 共働き世代を支える
- 趣味を通して人とつながる
- シニア世代同士のコミュニケーション作り

「毎日楽しく過ごさざあ」



2 テーブル

- 自分の意識（志）に基づき能動的に社会参加する事が 100 年人生への近道と考えます。その為には、健康維持と経済的自立に留意しようと考えます。
- 社会参加の為には、それを促す為に会、フェスティバル等集まりの時参加を誘うコーナーを設けることも必要

3 テーブル

身近な人と関わりを持つことから始める。（親子⇒地域⇒市）
できることから、一人一役。

4 テーブル

地域に愛着を持つ（子どもの頃から）

- 地域の行事に参加する。
- 趣味や特技を生かせる場をつくる。

→健康でいきがいややりがいがある人生をすごす。

5 テーブル

自分でやりがいを見つけ、積極的にコミュニケーションを取る。人と接することが長生きの秘けつである。

6 テーブル

町内会に興味なかったが、100 年生きるために

- 自分のためにやれることを一生懸命やると、それが誰かのためになる。
- ←はじめは人のためになど考えない。今だったら何ができるか考えた。
- 元気でいなければ、皆さんと話をする事 思いやり 人と会うこと
- 地域のためにできること。オールマイティーになることはない。みんなが共感してくれるようになってくる。
- 誰かがほめてくれた。やりがいを感じる。→人が喜んでくれてガンバリたくなる。

7 テーブル

○高齢者のひきこもりゼロを目指すために→「社会参加」

- お助けネット（有料ボランティア、1回100円で、交換、粗大ゴミ、電球 etc、なんでも助け合う）
- 得意不得意の持ち寄り

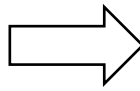
8 テーブル

自分のため＝誰かのため 人、地域とのつながり

若い世代→高齢世代 気持ち、役割の変化

20～40代の地域参加率の低さ、未婚率、地元に戻らない

- 忙しい
- 行事が多い、負担に感じてしまう
- 子育て、お金を使う、必要なことが多い



必要な支援、地域のしくみを作る

結婚促進!

9 テーブル

• 祭りなどの地域をつなぐの行事を、計画の見直しをして続けることが大事。

• 緑のおじさんのようなユニフォームを着て、ボランティアをしている→安心してあいさつ

ができる。あいさつと笑顔は基本であり元気の源

10 テーブル

地域の輪を大事にしたい。（地域の）子どもたちのために。→自分たちが楽しんで。

リタイヤしたとき、地域の中で役割がある。→活力になる。 つながる活動

11 テーブル

自分が楽しめる集まり（考え方 皇貴光齢）



地域の子供達との活動と関連付けする

焼津気質のフレンドリーを活かす

12 テーブル

- 若い人と年の多い人がふれ合うことのできる機会をつくる。
- 多くの費用をかけなくても、できることはある。
- 大人塾もつくる。
- 会長などの人が忙しいので、仕事との両立が大変。
- 人との交流→健康で長生きに
- 人と自然との環境づくり→交流も増える
- 100年生きることができて、健康であることが大切。

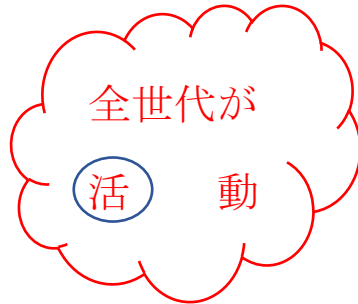
13 テーブル

本人も
相手も
地域も

楽しく!

14 テーブル

- ①健康
- ②自分から行動
- ③自分が楽しむ
- ④外へ広げる



15 テーブル

自分の好きなことを見つけて学ぶ → 趣味を生かしてコミュニケーション作り



16 テーブル

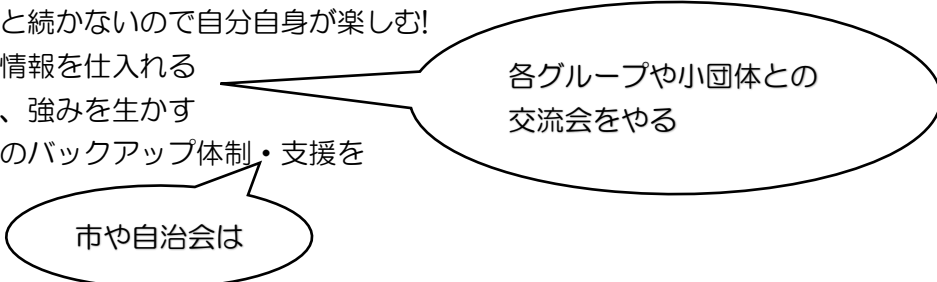
- 生涯修業 臨終定年
- 地域のつながり
- 自助共助
- 外国人の力も借りる

17 テーブル

生きる知恵を子供に伝えたい。
元気に自然に 100 まで

18 テーブル

- ①ギムでやると続かないので自分自身が楽しむ!
- ②外の様々な情報を仕入れる
- 自分の趣味、強みを生かす
- ③小さい組織のバックアップ体制・支援をしてあげる



19 テーブル

健康第一 健康寿命

世代間の交流をもって楽しく

人の為にやらせてもらう事が自分の為にもなる

得意分野を皆で共有する

子供→大人 大人→子供に

お互いに顔見知りになって安全な町づくりになっていく

20 テーブル

主な課題

地域の取組への参加を促す方法について

- ・若い人や仕事がある人にも遠慮せずに声をかけてきっかけを作る。
- ・長いスパンで役割を振ることで継続した参加を促す。
- ・参加したら大人も“楽しい”

21 テーブル

挨拶→知らない人と自由に話せる



ここから、人とのつき合いが始まる

“課題”

人と人とのつながりを深める

信頼・頼める人がいる

22 テーブル

まずは自分自身が健康である事と、今を楽しめる趣味が必要。(生きがい) 多勢の人との出会い、誰かに頼るのではなく、自立していく力を身につけていけば、100年の人生を送れる。

一方で、若者の視点として、高齢化社会に貢献できる職業を目指す学生もおり、将来に希望を感じたところ。

23 テーブル

地域で同じ夢を持つ

- ・夢を語る場 → ネットワーク 人脈



☆居場所作り☆

◎年齢にこだわらず
楽しめる会

- ◎老人会
 - なり手がいない・・・
 - 自治会加入率↓↓↓
- ◎新しい転入して
 - 来た人、ママさん
 - ・壮年世代
 - ・学生
 - 地区外の人 等
 - 会社
 - サークルつながり

◎居心地のよい空間

どの人にとっても

(発達障害の方策??)